

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



GEN20周年記念シンポジウムでは、緑化だけでなく地球環境問題とは何かという根源的な話題も（本文4～6頁）

### Contents

- 第18回会員総会の案内 ..... P 2
- 立花先生を偲ぶ会報告 ..... P 2
- 21世紀のエネルギーの主役は？報告 ..... P 3
- 地球環境と国際協力のためにわたしたちにできること ... P 4

2012.3

144

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

## 緑の地球ネットワーク 第18回会員総会のご案内

東日本大震災を経験して、いま私たちは問われています。未来の世代に、どのような日本を伝えていくのか。10万年猛毒をはきつづける放射性廃棄物を絶え間なく生産する原発に頼り、大量にエネルギーを消費する生活を続けるのか。多少は再生可能エネルギーで代替するにしても、これまでよりもエネルギー消費の少ない右肩上がりでない文明を模索するのか。再生可能エネルギーというと太陽光、風力が代表のようにいわれますが、木質バイオマス

もまた、人類を長く支えてきた再生可能エネルギーです。大同に再生する森林を上手に利用できる土台をつくらないといけない。20周年記念シンポジウムを聞きながら、そんなことを考えていました。

そして、津波によって破壊された海岸線の再生も、人々の生活のために必要なことです。会員総会の記念講演では、小川真さんに、東北の海岸線を再生する活動を中心に日本の森林の現状なども話していただきます。ぜひご参

加ください。

【緑の地球ネットワーク

第18回会員総会】

●日時：6月16日（土）13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時

◇講師：小川真さん（白砂青松再生の会会長・日本バイオ炭普及会会長・GEN顧問）

○会員総会：15時20分～16時40分

●場所：大阪市立総合生涯学習センター第1研修室（大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階 Tel.06-6345-5000 JR「大阪」駅／「北新地」駅、各線「梅田」駅下車）

●総会終了後の懇親会は調整中です。

### 報告 立花先生を偲び、語り合いました



立花先生を偲んで、多くのかたが集まった

緑の地球ネットワーク（GEN）前代表の立花吉茂先生が2011年9月20日に85歳で亡くなりました。2月16日、GEN関係者25名を含む66名が出席して、大阪弥生会館で「立花吉茂先生を偲ぶ会」が開催されました。

正面には中国大同市靈丘県の自然林に立つ立花先生の遺影が、咲くやこの花館の方からよせられた立花先生ゆかりの花でかざられました。

黙祷のあと、先生が子ども時代を過ごされた京都大徳寺の神波東嶽氏から思い出話が語られました。大阪市立大学理学部付属植物園でいっしょに仕事をされた佐藤治雄氏が植物園建設初期からの写真をスライドを使って紹介されました。

献杯ののち、会食をしながら、花と緑の博覧会・咲くやこの花館、草津市立水生植物公園みずの森、今帰仁ハイ

ビスカス愛好会・NPO法人沖縄有用植物研究会、NHK文化センターなど、先生とともに働き、また指導を受けたみなさんから思い出話が続きました。GENの高見事務局長からも先生の指導で建設し、緑豊かになった南天門自然植物園をスライドを使って紹介しました。また、大同の緑色地球ネットワーク

事務所武春珍所長からの追悼文をGENの東川事務局長が代読しました。

こうして各時期をともにされた皆さんが一堂に会して、先生の多彩な活動ぶりを振り返りました。84歳で病気治療に専念されるまで生涯現役を通された先生の思い出は尽きません。

最後に立花昌子夫人からご挨拶がありました。（太田）

### 報告 ワン・ワールド・フェスティバルに参加して 八木 丈二（GEN会員）

2月4日、5日に大阪国際交流センターでワン・ワールド・フェスティバルが開催されました。今回で19回目の開催となるワンフェスは、トークショー、映画上映、民族音楽と舞踊のステージ etc. …と、内容盛りだくさんで、GENはNGOの活動紹介に出展しました。

私は5、6年前にも出展のお手伝いをさせていただきましたが、クイズラリー等で子どもが多かったせいか、雰囲気のにぎやかで活気が増したなあと感じました。GENのブースにも大勢の人に訪れていただき、用意していたリーフレットは全て無くなってしまいました。

GENのブースでは杏仁の展示と試食もしましたが、そこから花の写真を見てもらって、なぜアンズを植えるのか

という話をすると、GENの活動に関心を持ってもらうきっかけとして良かったようです。

ただ、GENの20年間の成果を見ていただくには、写真パネルが少し古くなってしまっているのが、南天門植物園や植林地のbefore-after、新拠点の緑の地球環境センターなど、来場者にはできるだけ新しい写真を見ていただきたいし、私だってぜひそういうのを見たいなと思いました。



## いますぐできる GEN への協力



### ■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会員	12,000 円
家族会員（同居の家族 2 人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

### ■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

### ■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GEN への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

\*緑化基金の 20% は事務管理費になり

ます。

### ■絵はがき『黄土高原の花』

黄土高原の色あざやかな花ばなを絵はがきにしました。

絵はがき『黄土高原の花』8 枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

### ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

### ■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

### ■外国コイン・商品券など回収中

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

### ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

### 【GEN への寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは国税庁長官に認定された認定 NPO 法人です。（期限は 2014 年 5 月 31 日）。

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円以上の寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパと、会費のうち 1 口を超える部分・賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

## 報告 21 世紀のエネルギーの役割は？

川島 和義（GEN 副代表）

2 月 24 日、大阪市立総合生涯学習センターにて、GREEN なんでも勉強会『21 世紀のエネルギーの役割は？』を開催しました。注目の話題に、石油会社の副社長をつとめられた美谷島克実さんを講師にむかえ、30 人が参加しました。

ヒトは、食物から得られるエネルギーによって活動するという動物から進化し、火を使うことで外部に蓄積されたエネルギーを取り出すようになった。燃料は、木材などの循環資源だった時代が長かったが、19 世紀は石炭の世紀、20 世紀は石油の世紀だったが、21 世紀は何の世紀になるのだろうか。

美谷島さんは、これからは天然ガスの時代になるという。これは、エネルギーに関わる世界の常識的な見解らしい。核（原子力）エネルギーは、福島原発事故でも示されたように、ヒトが制御するのは困難だ。太陽光や風力等の自然エネルギーは、わずかなエネルギーを得るために広大な土地面積を必

要とするので、実用性に乏しい（効率が悪過ぎる）。

石油は、採掘できる場所が限られているために、政治的な争いの対象になる。その結果、1973 年の石油ショックに見られたように、石油価格は暴騰してきた。価格が上がると採掘費用が高くなっても採算がとれるので、可採埋蔵量は増える。だから、「30 年分しか無い」と言われ続けてきた石油は、使っても減らないどころか 40 年分に増えている。

天然ガスは、埋蔵量も十分あり、石油のように偏在していないので、安定して入手することができる。CO<sub>2</sub> の排出量を石油より少なくできる点でも好



ましい。石油は、化学製品の原料として使えば良い、とのこと。

石油の採掘は、10 カ所掘れば、3 カ所くらいで出て、実用になるのは 1 カ所くらいというような世界で、百億円、千億円の金が動く（ギャンブル的要素を持った）世界らしい。それだけの大きな資金力が必要だということになる。技術面では、地下のピンポイントに当てることができたりや井戸を横に掘ることができるなどの進歩が著しい。石油採掘現場に関わってこられた体験談も興味深いものであった。

報  
告

GEN20 周年記念シンポジウム

## 地球環境と国際協力のためにわたしたちにできること

1月28日、東京大学弥生講堂一条ホールで開催された GEN20 周年記念シンポジウム「地球環境と国際協力のためにわたしたちにできること」には 156 人が集まりました。パネルディスカッションや質疑も大変興味深かったのですが、ここでは、中国大使館公使の湯本淵さんのご挨拶と、講演の概要をご紹介します（文責＝編集部）。

湯本淵氏（中国大使館公使）

今年は日中国交正常化 40 周年です。これまで日中間にさまざまな交流事業がおこなわれてきましたが、そのなかで私が個人的に特に評価したいのは GEN の事業です。この 40 年間をかざる重要な交流だと思えます。いろんな困難があっても、環境保全のために事業をつづけてこられたことに対して、私は中国人として心から感謝しています。



中国の森林被覆率は 9% で、2020 年までに 20% まで引き上げることが国家目標です。予算はたくさんつぎ込まれていますが、地方では必ずしも中央政府の方針に歩調をあわせているとはいえないし、各地の住民も、環境保全や植林に対して情熱をしめしているとはいえません。みなさんが先頭に立って植林をやってこられたことで、中国の住民に刺激をあたえてきたと思えます。

みなさんがこれまで 20 年間の積み重ねを通じて日中関係に多大な貢献をしてこられた事実を社会へと発信していただきたい。これまで歩んできた 20 年間に総括し、新しい 20 年間へとつなげていただければと思います。

高見 邦雄氏（GEN 事務局長）

### ●大同とは

大同は北京から真西に 300km ほどで、北京の水源でもあり、風砂の吹き出し口にも当たります。「山は近くにあるけれど、煮炊きにつかう柴はなし。十の年を重ねれば、九年は日照りで一年は大水」という民謡があります。まったく私の実感でもあります。本来森林



であったはずのところも、全て段々畑に変わっています。住居はたいいてい土作りで、山も畑も住宅も黄土色一色です。

毎年のように干ばつになります。2009 年、10 年と 2 年続いたので、2011 年もとなると 3 年つづきだと心配したんですが、大同市の特に南部の方は雨がありまして、一息ついたところでした。

夏の雨が土をえぐって浸食谷をつくれます。水土流失がキーワードで、雨が降ると木も草もないから、雨水がそこに浸透せずに流れていってしまう、そのときに土も連れて行くので水土流失と言います。それがつづくとだんだん土から植物を育てる力が失われていき、その結果貧乏になる。その悪循環が砂漠化の原因なんですね。こういう問題を解決しなければ、環境問題の解決はないと気がきました。

### ●緑化プロジェクト

大同県の采涼山で、1999 年、マツのプロジェクトをはじめました。木はまったくありませんし、草もまばら。そこに 15cm ほどのマツを植えました。去年 7 月、丹羽宇一郎大使が私たちのプロジェクトを訪ねたときには、3.5m ぐらいに伸びていました。うまくいった理由のひとつに菌根菌、マツの場合はキノコですが、キノコの胞子を植えた土にまぜて苗を育てます。マツの根と共生して、丈夫な苗になり、定植した時の活着もその後の成長もよくなります。

もうひとつは小学校付属果樹園です。1993 年ごろには、村の小学校は校舎もぼろぼろ、先生も 1 人しかいなくて 3、4 年生までしか勉強できない、その小学校にすら行けない子がいる、そんな状況でした。農村に果樹園をつくって、そこからの利益を教育支援につかうことを思いつきました。渾源県の呉城村では、村で独自に植えひろげて 600ha、25 万本にまでなりました。村ではじめての大学生ができました。

### ●植物園をつくる

私たちの前の代表の立花吉茂さんは、



昨年 9 月に亡くなったんですけど、国内でもいくつもの植物園建設に携わった人です。私たちの活動に参加するときに地元で植物の研究施設としての植物園をつくりましょうといわれたので、地元伝えて候補地探しと植生調査をたのむと、自然林が見つかった。森林が成立する自然の条件はある、なんとかこういうものをひろげていきたいと、私たちの植林緑化に対する考え方はこの時点で大きく変わりました。

その近くの山で 100 年間の使用権を確保しました。先ほどの自然林からも種を集めてナラをはじめとする落葉広葉樹の苗をつくっては植え広げました。昨年の夏、着工してから 12 年たつと、自然に再生したものがかなり多くて、種類もなかなか豊富です。大きなものは樹高 12 ~ 13m、胸高直径 25cm ほどに育っています。

### ●変わる大同

ところで大同の町が大きく変わらつあります。この 3 年の変化は 30 年の変化より大きいといわれるぐらいで、華嚴寺や明代の城壁を復元するという観光開発、その基盤である道路整備などがすごいスピードで進んでいます。

私たちのプロジェクトもずいぶんあおりを受けて、緑化活動の拠点だった地球環境林センターが生態公園になり、白登苗圃とかけはしの森が大工業団地にひっかかった。新しく代替地を大同市から 30 年間無償で借り受けることになり、苗の移植もほぼ終わって生態植林見本園などもすすんでいます。

次々と開発にひっかかってどうなる



ことかと思いました。事情を知る人たちからはあんたたちはどうしていつも焼け太りなんだといわれるんですが、なんとかやってみりました。いろいろご心配をおかけして申し訳なかったのですが、こんなふうに進みつつあるのでご安心いただければと思います。

この20年、ずっと支えてくださったかたがたに、また、いろんな時代を支えてくださったかたにほんとうに感謝いたします。私たちは素人ばかりではじめたので、最初は明確な目標もありませんでした。しばらくやって、行き詰まる。脇からでてきたひこばえがなんとか育ちそうだと、今度はそれを育てる、幹は枯れたけど枝の1本がそれに変わって育っていくというような形でつづいてきた20年だったように思います。この先どこに向かって行くかははっきりとは見えませんが、いまのように困難にぶつかりながらも、もうだめかと思うと助けがでてきて、また息をふきかえして伸びていく、そんな形で進んでいってほしいなと思っています。

**桜井 尚武氏**（日本大学教授・GEN顧問）

#### ●時代の流れ

GENがたちあげられた1992年は環境サミットがリオデジャネイロでおこなわれた年です。その10年後ヨハネスブルグでリオ+10がおこなわれました。当時の小泉首相がでかけていって、日本が東南アジアの森林劣化、森林火災、森林回復についてお金を出して応援するよと言った。さらにリオ+20、今年の6月にまたリオでやるという話で、いま世界中ががんばっています。

1970年代にローマクラブが「成長の限界」をだして、地球は限りがある、無限の右肩上がりの成長はもうないと書いた。1987年、国連の環境委員会でサステナブル・ディベロプメントという言葉がでて、これがリオの地球サミットのキーワードになりました。

去年の3月11日以来、使いたいだけのエネルギーを使う時代はもう終わっ

た、あるものでとりあえずやるという文化をもう一度取り戻そうといわれてそろそろ1年たとうとしています。そういった時代の流れが、GENの活動がはじまってから現在までにありました。

日本ではもう緑化する場所がほとんどありません。これからの日本の緑化は植林ではなくて、いまある緑を維持し、さらに質を向上する。質を向上するというのは、実はわれわれにとって都合のいいものにするということです。

そんななか、GENが中国で地元の要請を聞きながら緑化をすすめてきたことは偉いと思っています。地元にも感謝され、カウンターパートがしっかりできてきて、次は中国が緑化の面でも中心になるのではないかという動きもでてきているように思います。

#### ●大同で望まれる緑化

大同では雨が年間400mm降る。平均の数値だから、いつも400というわけではなくて降らないときもある。そういう厳しいところで、一度裸にしてしまうともどすのが非常に大変ですが、それでも自然の力は偉大だし、使うことをやめてしまえば、かなりの緑化が自然にすすむ。でも自然の山がいいとは限らない。人にとって都合のいい緑資源が欲しい。役に立つ樹木をつくりたい。緑にされた結果生活にいろんな影響を受ける人たちとの関係も考えなければいけません。やっぱりGENがすすめているような、マツを中心にして、在来植物、都合のいいナラの仲間とか、つかえるものもいろいろつくっていくことを今後とも続けてほしいと思います。GENを中心に続けるとしても、現地の人たちもどんどん入ってくることになるでしょう。

#### ●緑化の意義

緑化が大事なのは、緑化しようといういろいろやってる人たちが、そのうちに自然というものがどんな仕組みになつてか身に付いてくる。そうすると、自然の見方、扱い方が変わってくる。身近な自然を大切にできるようになって自然と共生できる力がついてくる。そんなふうで緑化の活動が役に立つんだと思っています。GENはもちろん、いろいろところで緑化の活動に参加してもらえればありがたいと思います。

**松井 孝典氏**（千葉工業大学惑星探査研究センター所長・東大名誉教授）

#### ●宇宙から地球を見る

私はアストロバイオロジー、宇宙に生命を探すという種類の研究をやっています。いまは千葉工業大学で惑星探査研究センターという研究所にいます。アストロバイオロジーってゴールなんです。宇宙に生命を見つけたい、あるいは生命とはなにか。いまわれわれが知っている生物学は地球生物学で、宇宙で通用するという普遍性がない。学問とは普遍性が大きな目標ですから、地球生物学から地球をとる、というのが生物学が本当の学問になる道です。20世紀は物理学と化学が宇宙で通用することがわかった。21世紀は生物学がそうなるだろう。その手段として惑星探査をやるということでもいま宇宙の仕事をしています。最近では銀河系でいっぱい地球みたいな惑星がみつかっていますから、そういう惑星の上になにか生命を見つけたい。

1986年にネイチャーという雑誌に2本、地球がなぜこういう水惑星になったのかという論文を書きました。地球の大気や海がどうやって生まれて地球がどうしてこうなったのかというはじめての理論だったんです。そのころ地球環境問題というのが世の中で取り上げられるようになった。大気とか海とかいうのは大きなテーマですから、地球ができてからいまにいたるまでの地球環境の歴史という意味で、地球環境問題のいろんな会議にひっぱりだされるようになった。

#### ●地球環境問題とは

実は地球環境問題というのは、ホモサピエンスが地球の上で、はじめて生物圏、これは地球を構成するひとつの要素ですが、そこから飛び出して人間



圏という新しい構成要素をつくった。地球をシステムとしてとらえると、構成要素が変わればエネルギーの流れも変わるわけですから、それが地球環境問題というかたちで顕在化している。それが地球環境問題なんです。地球環境問題っていうからみんな地球のことわかっていると思うかもしれないけど、地球環境問題を議論する人で地球のことがわかっている人はいません。これが地球環境問題の方向性がみえない一番大きな原因です。人間にとっては周りはみんな環境ですから、ゴミ問題でもなんでも、自分が対象にしたい範囲

内で地球環境問題を定義して、いくらでも問題がでてくるんですね。ところが実際は地球の上でわれわれが生きる、このことで何が起きているのかということが一番本質なんだけど、ここまで見えない。地球ってどんな星ですかって聞いて、一言で答えられる人いないですよ。

地球はシステムですよというのが答えなんです。システムというのは構成要素が複数ある。その複数の構成要素が互に関係性がある。その関係性がなんで乱されるかといえば駆動力です。駆動力と関係性と構成要素でシステム

といえるんですね。実は地球は、システムであるというのが特徴です。

地球環境問題というのは、地球環境のなかにホモサピエンスが人間圏という構成要素をつくっていきはじめた、その結果おこったものです。この問題を解決するためには人間圏とはなにかということ、人間圏という内部システムをどういうふう構築していくのか、それが地球システムと調和していけるのか、こういうことを考えないと方向性も見えてきません。

**参加者募集**

**GEN 自然と親しむ会**

- 日時：5月13日（日）10時から15時半ごろまで
- 場所：太子町山田地区
- 集合：8時45分 近鉄河内長野線喜志駅ロータリー集合（改札を出て右側）。その後バス（片道260円）で作業場所まで移動予定。
- 指導：ネイチャーおおさか（社団法

**太子人工林間伐隊**

- 人 大阪自然環境保全協会
- 作業内容：スギやヒノキの間伐
- 参加費：300円（保険料を含む、交通費は含まない）
- 持ち物：飲み物、作業のできる服装・クツ、軍手、タオル、雨具
- ★昼食および作業道具（刃物・ヘルメット等）は現地で準備します。

- 申込締切：5月8日までにGEN事務所

所に電話、FAX、Eメールで  
太子人工林間伐隊はネイチャーおおさか（社団法人大阪自然環境保護全協会）がおこなっている里山保全活動のひとつです。太子町にあるスギやヒノキの植林地の間伐作業をおこないます。親切に指導して下さるので間伐作業が初めての人でも安心です。ぜひご参加ください。おいしい昼食も準備して迎えてくれます。

**参加者募集**

**関西ランチに参加しませんか！**

昨年の運営懇談会で、「関東ランチのような活動が関西にあってもよいのでは」「事務局の補助をする会員のグループがあれば」との声を受け、この度GEN会員のサポートコミュニティ「関西ランチ」を立ち上げました。活動内容は、関西で開かれる勉強会や野外交流会のお手伝い・自主企画など。連絡は主にメーリングリストを使い、役割分担しながら進めていく予定です。また、イベントに必要なことや、やってみたいことを話し合う座談会も年に何回か開きたいと考えています。

あまり無理はせず、メンバーができる範囲・やりたい範囲内で、ぼちぼちやっていければなあと思いますので、興味のある方はぜひご参加ください！参加したい方・興味のある方は大原 yihuang.d@gmail.com まで。

**参加者募集**

**関東ランチの活動予定**

- 【3月月例会】  
三宅島緑化プロジェクト～はじまりと、いままでと、これから～  
三宅島緑化プロジェクトは2005年、都立園芸高校ではじまり、現在都内農業系高校で連携して取り組んでいる活動です。この緑化活動がはじまった経緯、活動状況、今後についてのお話です。
- 日時：3月24日（土）15時～18時ごろ（月例会終了後に懇親会）
- 場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階第1・2会議室（「池袋」駅西口7分 <http://www.nikkyo.ac.jp/access/>）
- 話題提供：岡田満江さん（GEN会員・都立農産高等学校教諭）
- ★事前申込み不要（GEN会員でなくても参加できます）・無料
- 【4月以降の月例会】  
日程と場所のみ決まっています（変

更する場合があります）。  
話題をお持ちの方、こんな話を聞きたいという希望をお持ちの方、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

- 4月21日（土）／6月30日（土）／7月14日（土）

いずれも15時～18時、場所は立教大学池袋キャンパス5号館1階第1・2会議室です。

**【5月宇久須合宿】**

会報でも紹介してきました西伊豆町宇久須での関東ランチ主催の合宿を、今年度も企画しています。5月の合宿は、下記の日程で開催。無煙炭化器による炭焼き、再生休耕田での耕作などを進めるとともに、「西伊豆まちづくりカレッジ」（仮）創設の可能性を探ります。

- 5月11日（金）17時 現地集合、13日（日）14時 現地解散

詳細は3月中旬にお知らせしますので、関心をお持ちの方は下記まで。  
問合せ先：上田信（ueda@nikkyo.ac.jp）

黄土高原史話 〈57〉

太后馮氏がお膳立て

本シリーズ、「黄土高原史話」と銘打ちながら、なおしばし地域的・時間的に広がらず、北魏の大同から離れません。それというのも大同はGENの緑化協力の拠点にして、北魏の平城時代、中国の北半を支配した強盛国家の首都だったわけだから。

さて、前回は雲崗石窟の調査の経緯をたどったが、その前の〈55〉は北魏の第4代文成帝(452～465)。このときから、雲崗で石窟の造営が始まります。この大事業、5代献文帝(465～471)・6代孝文帝(471～499)と引き継がれるが、この三代はまさしく北魏の黄金時代。とりわけ名君孝文帝は、その絶頂期を現出する。ただし、それを準備したのは、文成帝の皇后にして孝文帝には祖母に当る太后馮氏にほかならない。

彼女の父馮朗は、今の遼寧西部に建国した北燕王室の出で、漢人。第3代太武帝(423～452)のとき北魏に入っ、今の陝西で地方官をつとめ、そのころ楽浪郡(朝鮮半島)出身の王氏を娶る。兄の熙とともに陝西の古都長安で生まれ、当時の女性としてはかなり高度な教育を受けた。ところが父がある事件に連座して誅殺され、太武帝の宮中に入って女官となる。次の文成帝が即位するや、特に選ばれて貴人(妃)に昇り、ついには皇后に立てられます。ところが幸せも東の間、帝は26歳で死去してしまふ。大喪の3日目、慣例どおり生前愛用の御服・御物の一切を焼けば、なみいる群臣・宮女らは声を上げて泣き叫ぶ。馮皇后も悲歎の極、絶叫するや火中に身を投げた。さいわい左右の者が助け出し、ようやく蘇生するを得た、と(『魏書』皇后列伝)。このとき彼女は17歳、若年ながら烈婦とあってよいでしょう。

文成帝のあとは、別の妃より生まれた献文帝が13歳で位につく。皇太后となった馮氏、権勢をふるう乙弗渾らの謀反を知るや、機先を制して誅滅し、以後朝政を切りまわす。山東・淮北へ

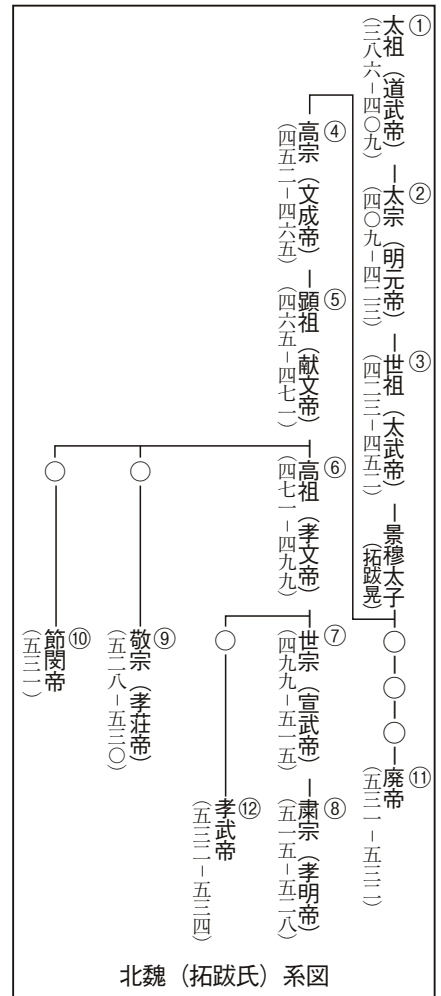
谷口 義介 (GEN 会員)

の遠征も、彼女の命で行なわれた。467年、献文帝の長子として後の孝文帝が生まれてからしばらく政治を離れるが、孝文帝が5歳になると献文帝に迫って退位させ、10歳のときには献文帝を殺害し、ふたたび政治の第一線へ。馮氏が先帝を殺したのは、そもそも彼女の品行正しからず、李突なる者を寵愛したが、先帝がこの男を誅したからだ、と巷の噂(『魏書』皇后列伝)。一代の女傑と申せましょう。

それはさておき、彼女はもとより聡明で、政務を取ってもただちに裁断を下すので、孝文帝はただその命に従うのみ。490年、馮太后は亡くなるが、その摂政時代に始められたのが後世まで影響を与えた均田法と三長制にほかならない。

均田法は485年、漢人官僚李安世の献議にもとづき創設された。当時問題となっていた豪族の大土地所有を抑制し、農民には年齢・性別などに応じた土地の授給と回収を行なって支配を強化、税収の確保・増大を図ったが、妻・奴婢・耕牛にも給田されたので、それらを多く所有した豪族には有利な面も。三長制は村落に隣長・里長・党長の三長を置く隣保組織で、三長には均田法実施のための戸籍調査・税の徴収を担当させた。理想どおり実施されたかどうかはともかく、これが国家財政にプラスしたことは確かなようだ。かくして孝文帝のとき、北魏の国力は頂点に達します。

ちなみに、『魏書』食貨志に均田の法



北魏(拓跋氏)系図

を述べて、「男一人当り20畝の土地を給すゆえ、穀作の余暇には桑50本・粟5本・榆3本を植えよ。桑に不向きな土地では別に1畝を与えるから、榆・粟のみ植えよ。桑・榆以外の混植も、また決り以上の増植も可と致す。ただし3年たつても植樹が終わらないならば、土地は没収」と。一人当り約60本、これはまさに一大植林事業ではあるまいか。

夏の黄土高原ワーキングツアー予告

夏のツアーの日程が決まりました。費用、スケジュール等詳細は未定ですが、次号でご案内いたします。

好評の高山植物を楽しめる少し遅めの日程です。「夏に行くよ!」という方、いまから予定にいられておいてください。

- 日程: 8月19日(日)～25日(土)
- 参考費用(昨年実績): 160,000円(燃

油特別付加運賃等別途) ※関空発着。羽田/成田利用希望の場合は別途航空運賃差額分が必要。

- 訪問先: 中国山西省大同市(北京経由)
- 定員: 35人程度
- 最小催行人数: 12人

会報5月号で詳しく案内しますので、資料請求はそれ以降にお願いします。



特別シンポジウム（会場参加型）  
地球サミット「リオ+20」に向けて  
～私たちが、望む未来とは～

地球サミットから20年たったいま、人類はどのような未来を望むのか。東日本大震災を経験した日本からどんな思いを発信するのか。集まった声を、リオに届けます。

- 日時：3月24日（土）13時～17時
- 場所：京都テルサ第1会議室（京都市南区新町通九条下る京都府民総合交流プラザ内、tel. 075-692-3400、地下鉄「九条」駅、近鉄「東寺」駅徒歩5分）
- 参加費：500円
- 主催：地球サミット2012Japan、一般社団法人環境パートナーシップ会議、京のアジェンダ21フォーラム
- 連絡先：京のアジェンダ21フォーラム事務局内（tel. 075-647-3535）
- 申込み：http://ma21f.sblo.jp/ から登録（先着150名）

本山寺自然環境保全地域を考える協議会  
2011年度報告集会

知って欲しい、高槻の森林の今。

シカ等が原因で、林床植生の消失が急速に進む高槻市本山寺周辺のモミ・ツガ・アカガシ林。いま高槻の山で起

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

こっているいろいろなこと、この1年間にわかったことの報告です。

- 日時：3月31日（土）13時30分～17時
- 場所：高槻市立生涯学習センター3F 研修室（高槻市桃園町2-1 高槻市総合センター内。tel. 072-674-7700 JR「高槻」駅、阪急「高槻市」駅下車）
- 定員：先着50名
- 資料代：300円
- 申込み：氏名・住所・所属・連絡先（電話番号・FAX番号・E-mail）を記入の上、E-mail、FAX、ハガキにて下記まで。懇親会（会費3,500円）は3/16が締切なので、お問い合わせください。
- 申込先：（社）大阪自然環境保全協会／本山寺自然環境保全地域を考える協議会・報告集会係（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13-202 E-mail: office@nature.or.jp Fax. 06-6881-8103）

土佐文旦をどうぞ

ご自宅用に、ご贈答に、土佐の春の香りをお楽しみください。

土佐文旦

- A 3L、4L 5kg 6～9玉 4,000円
- B 2L 5kg 10玉前後 3,500円
- C L 5kg 12玉前後 3,000円

◆送料別途：関西630円、関東840円、

北海道1,050円（20kgまで）

◆10kg箱もあります。

●ご注文は下記まで。

【田中農園】田中隆一

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 (tel./fax. 0887-29-2500 E-mail: tanakan@quolia.ne.jp)

※売り上げの一部を寄付いただいているので、ご注文の際は「GENの紹介」とひとこと添えてください。

編集後記

豪雪の冬が終わりました。遅れていた梅も、ようやく開いています。風はまだ冷たいけれど、光は春です。

長い1年でした。厳しい冬でした。住民が帰ることを許されない原発周辺の避難区域を、やせこけた動物たちがさまよっています。ほとんどが餓え凍えて命を落としたなか、なんとか命をつないでいる彼ら。家族であるペットたち、財産である家畜たちが、置き去りにされ、助けの手もなく、場合によっては餌でおびきよせられて殺される。放射能さえなければ、そんなことにはならなかったでしょうに。

ようやく公的な救助の手が入っているという話を聞きました。彼らにも暖かな春が1日も早く訪れるように願います。（東川）